

# 「九歳の旅立ち」を命名する



子どもはいつか「おとな」になる。必ず、なる。生まれたばかりのあかちゃんは「こども」だ。「あかちゃん」でもあり「こども」でもある。結婚したらあるいは結婚するかもしれない年齢になっていたら「おとな」だ。高校生ならばどうだ。「こども」ではないが親からみればまだまだ「こども」かもしれない。思春期という言葉もある。青年という言葉もある。では、中学生は少年か。（「少年」//広義では少女を含む// 新明解国語辞典第三版）

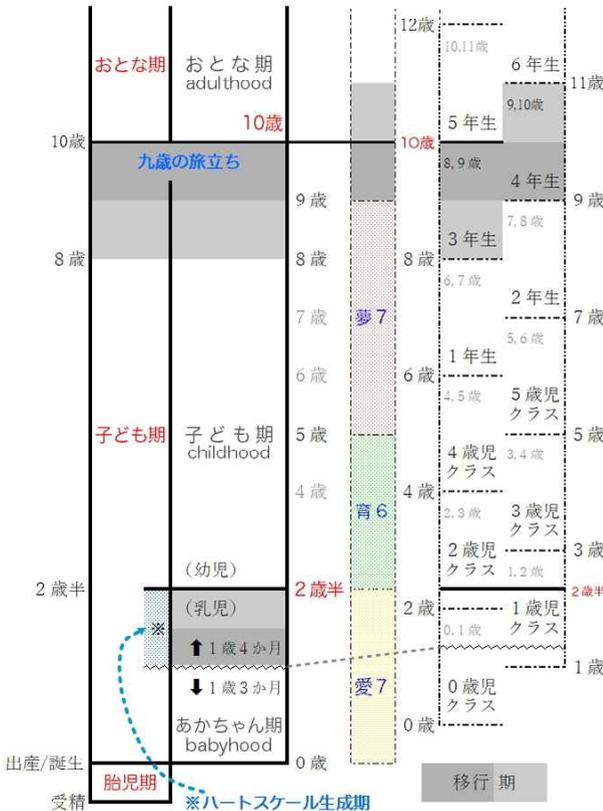
集団で「こども」は育つということを考えるとき、あかちゃんの集団と小学校の校庭で遊んでいる集団を同じテーブルで考えられない。それは極端として、では小学校の1年生と6年生とでは、どうか。対象とする「こども」を、年齢などを設定せずに議論できない。幼児は元気に遊ぶ。会話も一人前にする。その幼児と小学生を「こども」と、ひとくくりで表現していることが多い。

年齢で区切る場合、「こどもは、0歳に始まって7歳までとする」としてみる。「七歳までは夢の中」というシュタイナー教育の本がある。西洋では乳幼児の終端を7歳にお

いている例が多い。//七歳になるまでは、こどもは神さまだといっている地方があります。//（柳田国男『小さき者の声』角川文庫に収められている「神に代りて来たる」より）とあるように、日本でも「七歳」を区切りとする事例がある。日本の場合は数え年かもしれない。満年齢では、小学1年生の4月では6歳。2年生は7歳。

「幼児」の終端は、小学校就学時ではなく「小学2年生」だとわたしは考える。「絵本年齢」という言葉をわたしはつかうが、その終端は2年生にある。入学したらいつまでも絵本はどうかと迷う親もいるが、絵本の役割は続く。絵本を捨てたり誰かに譲ったりしないで、2年生が終わるまでは子どもの宝物だから大切にしてほしい。子どもの発達を考えると、0歳から2年生（7歳または8歳）までをひとつのつながりとしてみる事ができる。

「子ども期／おとな期」対照図



子どもはいつか「おとな」になる。必ず、なる。7歳までは「こども」である。「こども」と「おとな」の違いは何であろうか。このことは《いつから「おとな」で、遊びを考える。》で説明している。0歳から2年生までに共通することは（たとえば、親に）保護される対象ということだ。したがって、3年生（8歳または9歳）からは保護されない（というわけにはいかないけれども……）。人は必ずつまづく。失敗する。誰かに迷惑をかける。3年生からは**自分で解決にあたる**。これで「おとな」になれる。

「こども」か「おとな」かの見極めは、おとながする。子どもが自身を「おとな」と自覚するのはもう少し先だ。3年生を「おとな」として見るおとなはまずいない。「おとな」への旅立ちは、問題解決能力が求められる事案に出会い、その試練に出会ってからだ。

ところで、「おとな」と「こども」の**中間帯を置かない**ほうがこの両者の違いあるいは役割を考えやすい。保護する側だったおとなは、保護しない方向へ気持ちを切り換える（つきはなししてみる）作業が求められる。「見かけ"こども"」を「おとな」と認識するのは、おとなには容易でない。そこで、おとなに猶予を与えよう。

3年生と4年生の2年間で、おとなが認識を切り換える緩衝期間とする。「こども / おとな」の見極めはおとながするのだから、「こども」を「おとな」へ属性変更する区切りを「5年生から」に同意していただく。5年生の4月は10歳である。

こんな理由で、0歳に始まって（10歳の前年）9歳までを「こども」とした。学年で説明する方が周知しやすいので、9歳は3年生と4年生にまたがり、4年生は9歳または10歳である。9歳はこどもの終端であり、おとなへの起点でもある。9歳を節目として認識するために、子どもの健やかな成長を祈念し、「**九歳の旅立ち**」と命名してみた。

## 「10歳」が登場するスクラップ

マルコ・イアコポーニ『ミラーニューロンの発見』ハヤカワ文庫 2011年  
p204 //ミレッラが第一に知りたかったのは、〔ミラーニューロンシステムの調査において〕定型的な**10歳児の脳**が成人の脳と同じような活動パターンを見せるかどうかだった。//

p205//そしてミレッラの調査した子供たちは、以前に成人で観察された脳活動とまったく同じパターンを示してみせた。予測的中である。//

OECD教育研究革新センター『脳からみた学習』明石書店 2010年  
p171 //新生児のシナプスの数は、成人と比べると少ない。しかし、生後2か月がたつと、脳のシナプス密度は急激に増加して〔シナプス形成〕成人のシナプス密度を超える。生後10か月がピークで、**10歳になるまでに**シナプスの数は着実に減少し〔刈り込み〕、「成人レベル」のシナプスの数になる。その後のシナプス密度は相対的に安定している。//

マシュー・リーバーマン『21世紀の脳科学』講談社 2015年  
p173 //他者とのやりとりによって練習を積み、**10歳までに**“複雑な社会生活を送るエキスパート”になるための重要な機会//

ライアル・ワトソン『エレファントム』木楽舎 2009年  
p20 //六週間の夏休みは飛ぶように過ぎていった。一月になって学校に戻るのはいやだったが、一つだけ慰めがあった。これでまた一年、終わりへと近づいたのだ。学校ではなく、子ども時代の終わりだ。**10歳になれば**“ストランドローパー”の仲間入りができる。//

- 愛7 ラブリーセブン 0歳～2歳半
- 育6 そだつロク 2歳半～4歳満了時
- 夢7 ゆめセブン 5歳～小2（または小4）

このページは、アイデアにすぎません。「子育て」の目安になればと思い、創作してみました。それぞれの標目の詳細はこちらに▶あります。



## 愛7

- 1) あかちゃんがいる。
- 2) 抱く・ふれあう
- 3) 常に、語りかけ、聞く
- 4) ほほえむ
- 5) ゆっくり、そして、はやく。ときには、とどまる
- 6) はじめの第一歩
- 7) みとめる、一緒に歩く

## 育6

- 1) 食べて育つ
- 2) よーいどん
- 3) 手をつなぐ
- 4) きく・はなす
- 5) みる・ふれる
- 6) おかたづけ



## 夢7

- 1) 時間
- 2) 遊ぶ
- 3) 働く
- 4) 内緒
- 5) 表現
- 6) 歩く
- 7) 学ぶ

